

透析患者の QOL が介護者の QOL に及ぼす影響に関する研究

世界では透析治療をはじめとする腎臓代替医療（renal replacement therapy）を受けている患者は多く、2001 年でおおよそ 140 万人いると推定されています。米国では 2014 年末には透析治療および腎移植を受けた患者はおおよそ 68 万人です。日本においても透析患者数は 2011 年には 30 万人を超えています。透析は病院への頻繁な通院を必要とし、日常生活に制限を与えます。そのため、これらの患者はしばしば介護者によるケアと支援を必要とします。患者と介護者の両方を合計すると、透析治療に関わる人口は高い割合になると考えられます。一般に透析治療は週に 2~3 回通院し、1 回につき 3~6 時間かけて行われます。そのため、透析治療は患者にとって身体的、精神的負担が大きいと考えられます。透析患者は生活の質（quality of life : QOL）が全体的に低値を示すことが報告されています。

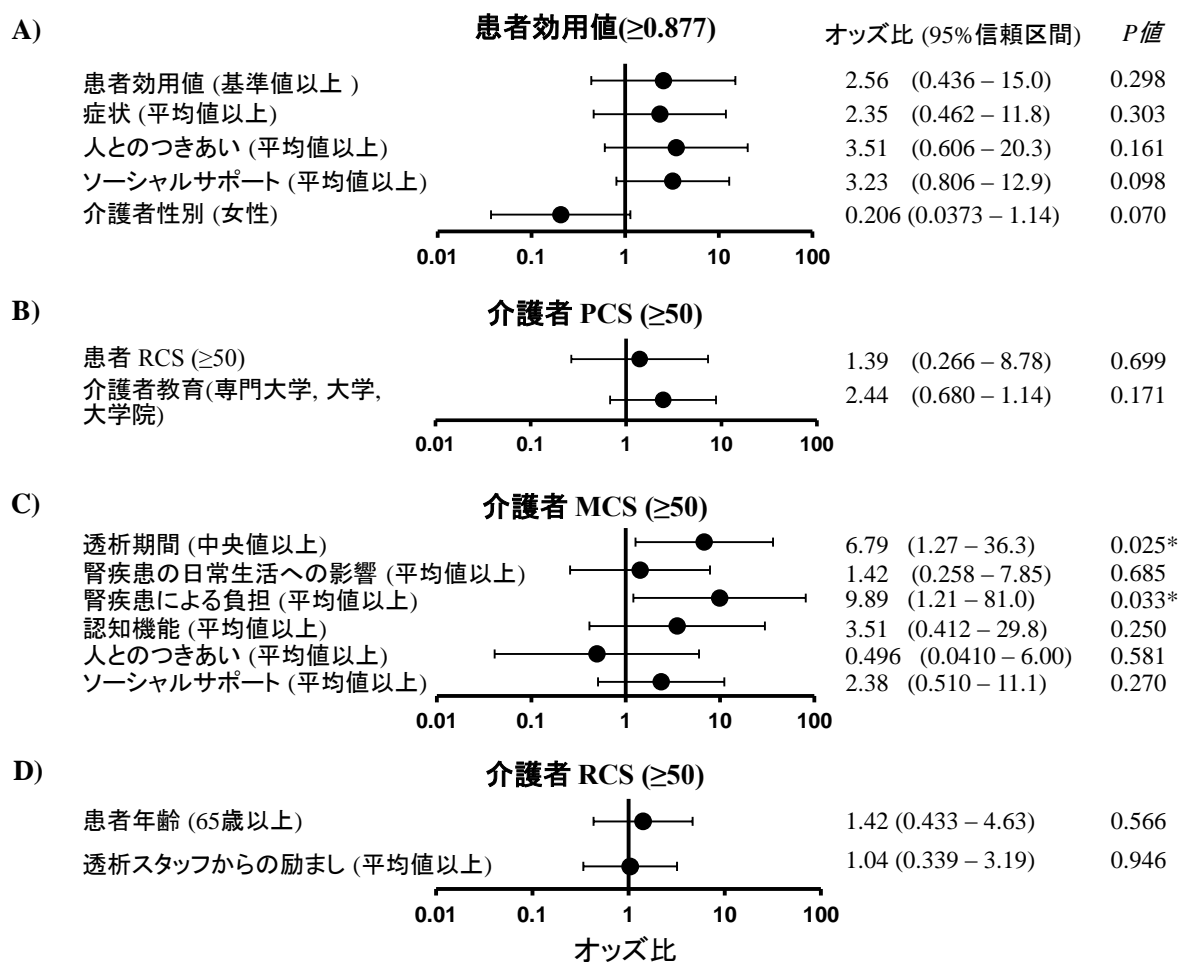
また、透析治療は長期に及ぶため、治療の継続には家族等の介護・介助が不可欠です。透析患者の介護者では、介護による負担が大きいこと、および QOL の一部が低値を示すことが報告されています。しかしながら、透析患者の QOL が介護者の QOL に及ぼす影響については明らかにされていません。透析患者の QOL が介護者の QOL に及ぼす影響を明らかにすることは、患者だけではなく介護者にも配慮した治療およびケアを行ううえで重要です。そこで本研究では、多変量ロジスティック回帰分析により、透析患者と介護者の QOL の関係を明らかにしました。

2015 年 6 月 1 日から 2015 年 12 月 31 日までにセコメディック病院および千葉中央メディカルセンターで透析治療を受けた患者およびその介護者 84 組としました。

患者-介護者 84 組のうち、51 組から回答が得られました（回収率 60.7%）。また、有効回答率は 100%でした。

「介護者効用値」を従属変数、 $P < 0.20$ であった「患者効用値」、「症状」、「人とのつきあい」、「ソーシャルサポート」および「介護者性別」を独立変数として多変量解析を行いました。多変量解析の結果を図 1A に示します。いずれの項目においても有意差は認められませんでした。単変量解析で $P < 0.20$ と有意であった患者 RCS および介護者学歴を独立変数とし、介護者 PCS を従属変数とした多変量解析の結果を図 1B に示します。どちらの変数も有意差は認められませんでした。「介護者 MCS」を従属変数、 $P < 0.20$ であった「透析期間」、「腎疾患の日常生活への影響」、「腎疾患による負担」、「認知機能」、「人とのつきあい」および「ソーシャルサポート」を独立変数として多変量解析を行った結果を図 1C に示します。「透析期間」（中央値以上）[オッズ比 (OR)、6.79] および「腎疾患による負担」（平均値以上）[OR、9.89] で有意差が認められました。「介護者 RCS」を従属変数、 $P < 0.20$ であった「患者年齢」および「透析スタッフからの励まし」を独立変数として多変量解析を行った結果を図 1D に示します。いずれの項目においても有意差は認められませんでした。

図 1 介護者 QOL における多変量解析の結果



透析初期に介護者の精神的な QOL が一般の人より低いこと、および患者の腎疾患による負担が大きい（つまり、患者の腎疾患による負担に関する QOL が低い）と介護者の精神的な QOL も一般の人より低いことが明らかとなりました。介護に慣れていない透析開始初期の介護者の支援、社会的に活発な透析患者の腎疾患による負担の軽減を中心に透析治療およびケアを行うことにより、介護者の QOL の改善をはかることが可能であると考えられます。

【発表論文】

Hiroyuki Nagasawa, Ikuto Sugita, Tomoya Tachi, Hiroki Esaki, Aki Yoshida, Yuta Kanematsu, Yoshihiro Noguchi, Yukio Kobayashi, Etsuko Ichikawa, Teruo Tsuchiya, Hitomi Teramachi, The Relationship Between Dialysis Patients' Quality of Life and Caregivers' Quality of Life, Front. Pharmacol., 9:770.doi: 10.3389/fphar.2018.00770, 2018.